



回復期リハ看護師とは・・・ 回復期リハ看護師認定コースのご紹介

全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会では、会員病院に所属している看護師を対象として、回復期リハビリテーション病棟（回復期リハ病棟）において「回復期リハサービスの対象者及びその家族に対する質の高い看護の提供」、「回復期リハ病棟における個人、集団、組織に対するリスクマネジメント」、「回復期リハサービスにおける多職種との協働とチームアプローチの実践」などの活動を行うことのできる看護師を育成し「回復期リハ看護師」として認定をしております。

回復期リハ看護師として認定されるためには、①認定コースの18日間に亘る全日程に出席し、レポートの提出により合格の評価を得ること、②認定コース修了の後自らの課題を決めて、回復期リハ病棟で4ヶ月以上の実践活動を行い、全研修終了後6ヶ月以内にその実践活動レポートを提出すること、など厳しい条件が求められます。

18日間の研修は一流の講師陣による講義で幅広いプログラムで構成されており、受講生からは大変好評を得ています。

(平成22年度講義実績一覧・講師敬称略)

講義タイトル	講師名	講義タイトル	講師名	講義タイトル	講師名
回復期リハ病棟の役割と将来像	石川 誠	生活の機能の評価と看護の視点	ワークショップ	高次脳機能障害の理解と看護	中西 純子
医療保険制度・介護保険制度の動向とリハ	石川 誠	人体のメカニズム(含演習)	松木 秀行 小笠原 正	コミュニケーション障害	森田 秋子
家庭復帰の考え方と社会制度の活用	取出 涼子	人体のメカニズムとテクノイド	石原 寛	排泄障害の理解と看護	西村 かおる
障害への反応と回復過程	粟生田 友子	脳血管疾患の理解	内山 真一郎	スキンケア	江幡 智栄
看護とリハビリテーションの考え方	酒井 郁子	急性期における脳血管疾患の看護	佐々木 美和子	リーダーシップ論	小寺 栄子
QOLの考え方と評価	酒井 郁子	リハビリテーションとチームアプローチ	小林 由紀子	障害者と社会制度	伊藤 利之
生活の再構築と自立支援	酒井 郁子	回復期リハ対象の骨関節系疾患の理解	西村 一志	安全と抑制	井上 郁
運動学の基礎	才藤 栄一	回復期リハ対象の骨関節系疾患患者の看護	吉村 洋子	家庭復帰のための住環境整備	相良 二郎
身体機能の考え方と評価・ADLの評価	澤 俊二	呼吸器系疾患とリハ	加賀谷 斉	医療施設における療養環境整備	箕 淳夫
精神機能の考え方と評価	南雲 直二	倫理的課題の捉え方とアプローチ	鈴木 志津枝	家族関係・家族状況の理解	渡辺 裕子
脊髄損傷の理解	二瓶 隆一	高齢者の理解	横井 郁子	家族機能の考え方と評価	渡辺 裕子
脊髄損傷患者の看護	道木 恭子	継続看護と地域連携	上野 桂子	人間関係論・対人関係の構築	山浦 一保
全身管理とリスクマネジメント	木下 牧子	認知症の理解と看護	桑田 美代子	抑うつ理解と看護	福田 亜紀
廃用症候群の理解	里宇 明元	摂食嚥下障害	小山 珠美	教育的関わりコーチング論	北浦 暁子
廃用症候群の予防と看護	井上 郁	口腔ケア	角町 正勝	コンサルテーション論	井上 郁

認定コースへの応募にあたっては、日本国の正看護師の免許を有すること、正看護師の免許を習得後、実務経験が通算5年以上あること、回復期リハ病棟での正看護師としての勤務経験が受講日の時点で原則1年以上あること（受講時に回復期リハ病棟に在職していることが必要です）、施設長もしくは上司の推薦があること、回復期リハ看護に対する強い意欲があること、全3回の研修会（合計18日間）に全日程参加できること、などの要件が必要です。上記の要件を満たしていることを看護委員会にて確認のうえ審査し、回復期リハ看護師認定コースに参加いただくことになります。

「回復期リハ看護師」として当協議会が認定した看護師は、平成23年4月時点で322名の方が全国で活躍されています。毎年1回、回復期リハ看護師認定コースの募集（約120名）を行っていますので、これからもますます「回復期リハ看護師」の輪は広がります。

興味のある方は、下記までお問い合わせください。

連絡問合せ先 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会事務局
〒151-0071 東京都渋谷区本町 3-53-3 初台リハビリテーション病院内
電話:03-5365-8529 FAX:03-5365-8538 E-mail:kaifukuki@rehabili.jp